4段階で評価(角倉の見解)理由づけはなし {1は悪い、4は良い}

1 システム状態の視認性を高める

(Visibility of system status)

2 実環境に合ったシステムを構築する

(Match between system and the real world)

3 ユーザーにコントロールの主導権と自由度を与える

(User control and freedom)

4 一貫性と標準化を保持する

(Consistency and standards)

5 エラーの発生を事前に防止する

(Error prevention)

6 記憶しなくても、見ればわかるようなデザインを行う

(Recognition rather than recall)

7 柔軟性と効率性を持たせる

(Flexibility and efficiency of use)

8 最小限で美しいデザインを施す

(Aesthetic and minimalist design)

9 ユーザーによるエラー認識、診断、回復をサポートする

(Help users recognize, diagnose, and recover from errors)

10 ヘルプとマニュアルを用意する

(Help and documentation)

URL

https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A4%E3%82%B3

%F3%83%96%F3%83%BB%F3%83%8B%F3%83%BC%F3%83%AB%F3%82%BB%F3%83%B3

北海道情報大学	青山学院大学	新潟国際情報大学	
		画面のデザインが同じ	 (恐らく <u>f</u>
2	2	2	3
2	2	2	2
2	:	2	2
2		1	2
2	- 不明(おそらく4)	不明(おそらく4)	
2		L	3
2	<u>?</u>	2	4
2	2	L	3
1	. ユーザーによる対策と認識		4
1		L	1

摂南大学	金沢大学	
全て {何か元があると推定)		
	3	3
	2	2
	2	2
	2	4
不明(おそらく4)	不明(おそらく4)	
	3	1
	4	2
	3	1
	4	1
	1	4